赤十字ボランティアのための情報誌

RCV

Red Cross Volunteer

No. 70

2018. 10.

Contents

平成30年７月豪雨災害

特集１　災害ボランティアセンターって何？

特集２　若さと汗が光る！熊本の熱き奉仕団

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

特集１

災害ボランティアセンターって何？

災害ボラセンの主な役割とは

ニーズの把握
被災地での問題を解決するため、そもそも何がニーズとして存在しているのかを見つけていく。

ボランティアの受入れ
日本全国から集まるボランティアの受入れを、被災者のニーズにあわせて調整する。
被災地の情報提供、必要な資機材の貸し出しなども行う。

活動の取りまとめ
ボランティアから活動結果や気がついたこと、住民からのニーズなどの活動報告を記録。その後の活動に活かしていく。

参考：全社協被災地支援・災害ボランティア情報
（https://www.saigaivc.com/201809213/）

「自然災害大国」、日本。災害時には、被災地にある社会福祉協議会や行政が「災害ボランティアセンター（災害ボラセン）」を設置する。ここが、ボランティア活動を円滑に行うための拠点となる。

災害ボラセンは、「被災者中心」「地元主体」「協働」の３原則をもとに運営される。その役割は、被災地の支援ニーズの把握・情報整理、ボランティアの受入れと被災者とのマッチングなど、ボランティア活動の重要な調整機関となっている。

平成30年7月豪雨災害では、各被災地で災害ボラセンが立ち上がり、９月までに22万人を超えるボランティアが災害ボラセンを通じて活動を行った。

＋＋＋ 災害時のスペシャリスト“赤十字防災ボランティア・リーダー”＋＋＋

赤十字ボランティアは、平時から救護訓練や研修などに参加し、災害時に備えています。災害時には防災ボランティアとして、情報収集や炊き出し、安否調査、救援物資の輸送・配分、避難所の支援などをします。
その中でも、経験から培ったノウハウを活かし、ボランティア活動のコーディネートや人手不足などの災害ボラセンの運営支援するボランティアを「**赤十字防災ボランティア・リーダー**」といいます。

災害ボラセンここが知りたい！
運営スタッフの業務

災害時、被災者とボランティアのニーズをマッチングさせる拠点「災害ボランティアセンター」。被災者とボランティアを支えるためにボラセンが担う業務の一部をご紹介！

応急救護

酷暑でのボランティア活動では倒れる人が続出。物品がない中、ゴム手袋に水を入れて冷やした即席の氷嚢を準備。
経験による工夫！

物品整理・管理

ボランティアセンターには企業やＮＰＯ等から様々な支援物品が集まる。活動に必要な物品や資器材を整理・管理し、ボランティアが必要なものを迅速に準備。

安全・衛生管理

水害で様々なものが混ざった泥には感染症の原因がいっぱい。家屋の泥かき活動を終えたボランティアの泥落としや手洗いの励行などボランティアの衛生管理も重要な役割。

”助けてもらってありがとう“

全国から駆けつけるボランティアや救護班を支える・赤十字防災ボランティアリーダーの活躍

INTERVIEW 01

「痛かったですね」負傷したボランティアを救護所へ案内

記録的な豪雨から初の三連休。数千人のボランティア受入れ準備のため、早朝四時半に自宅を出発し倉敷市災害ボランティアセンターに向かう加藤さん（日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団）。早めにセンターに入り、入念な会場準備とスタッフ打合せを行う。

「救急法指導員などの経験から、主に救護を担当しています。とにかく暑いので、ボランティアさんの熱中症対策が一番の課題です」

センター内の温度は四十度を超え、湿度もかなり高い。物資が不十分なセンターで考えたのが、医療用ゴム手袋に砕いた氷を入れた手作り氷嚢。「活動を終えたボランティアさんが、少しでも涼しく休んでいただければ」

センターの環境整備に奔走し汗だくの加藤さんの明るい声が響く。「ボランティアさんたちが帰ってきました！」

INTERVIEW 02

土地勘を活かしたルート確保は地元ボランティアならでは

「この道なら行けます」。日赤広島県支部災対本部で、他県の医療救護班に通行可能な経路を伝える朝野さん（広島レスキューサポートバイク赤十字奉仕団）。

朝野さんが住む呉市焼山地区は、猛烈な雨による土砂崩れで道路が崩落し、5㌔にもわたり幹線道路が途絶した。

「コンビニが空になり、ガソリンスタンドが閉鎖したのは困りました」。通常ならバイクや車で被災地に駆けつけるが、今はまずはスコップだ。

どんな被災地も独特。多様な活動スタイルが必要となる。

数々の災害現場の経験から、自ら現場に足を運び、地元の人に敬意を払いながら、自分の目で埋もれたニーズを見つける地道さを大事にしている。

INTERVIEW 03

「おかえり。大変じゃったなぁ。どこから来てくれたん？」

被災地域に最も近いサテライトは、日が照りつけ、砂埃が舞い、停電が続く。環境は劣悪だ。「信号が止まっとるけ、ボランティアバスが到着したら交通整理もするんよ」

真っ黒に日焼けした優しい笑顔でボランティアを迎えてくれるのは、日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団・岡山県赤十字救護奉仕団の須崎さん。活動を終えたボランティアには必ず一声かけをする。

「なんでもない会話をしたらホッとする。しんどい思いをしたボランティアさんには笑顔で帰ってほしいけぇね」

最前線の過酷な状況がわかるからこそできる、さりげない気配り。炎天下の活動を終え、火照ったボランティアの顔に自然と笑みがこぼれる。

※インタビュー内容での各被災地の状況は、いずれも2018年7月中旬頃のものです。

特集２

若さと汗が光る！熊本の熱き奉仕団

５人の熊本県青年赤十字奉仕団が活動を行った7月22日、広島県坂町の最高気温は34.9度でした。猛暑の中、安全対策のために、彼らは長袖・長ズボンにマスクで作業にあたりました。
今年は都内でも熱中症が多く発生していましたが、こまめな休憩と十分な水分補給で無事にボランティア活動を終えました。
若い彼らであっても、この猛暑の中での活動は暑さに体力を奪われ非常につらいものでした。乗り切ることができたのは、活動のためのしっかりとした計画・準備、熱中症対策、そして被災者の方々の笑顔やお気遣いがあったからです。

VOLUNTEER

ボランティア活動開始！

まずは活動場所の確保からスタート！
地元の消防の方と協力して切り株などを切断

水路の復旧作業
土砂によって水路がふさがれているため新しい水路を確保し、雨に備えました。
スコップで溝を作り、掘った土砂を袋に詰め溝が崩れないよう周りに並べていきました。

家屋と周辺の土砂の搬出
家屋の復旧に向け、家屋内の土砂を外に搬出する作業を進めていきました。
土砂を掘る人、土砂を袋に入れ袋を外に出す人、という役割分担をして土砂を運搬しました。

VOLUNTEER

水害作業ボランティアの服装・携行品例

炎天下での活動は“まるでサウナ”

安全のためには仕方ないけど
それにしても暑い！！！

■ボランティア活動をする上での注意事項

- 体調管理のため10分活動、10分休憩
- 物を捨てる際は、家主に確認する
- 名札をつける（住民の方の不安軽減のため）

など

出展：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
（http://rsy-nagoya.com/volunteer/volknowledge.html）

熊本県青年赤十字奉仕団インタビュー

被災者の声を聴くこともボランティア ～だれでも何かの役に立てる～

今回、被害の大きかった広島で、復旧作業ボランティアに参加した熊本県青年赤十字奉仕団（熊本青奉）の方々にインタビューしました。

生きる勇気をもらった恩返し

ーなぜ熊本青奉のみなさんが、広島でのボランティアに参加することになったのですか

自分たちも熊本地震を経験しており、その時にボランティアの方々から生きる勇気をもらい、ボランティアのありがたみを身にしみて感じました。今回の災害が発生した時に「今度は自分たちが何か恩返しをしたい」と思ったためです。

ー最高気温約35度という猛暑の中で、どのような暑さ対策をしていましたか

十分な水分補給や冷たいタオルなどで体を冷却すること、適度な休憩とることを心がけていました。休憩時間には、団員同士でお互いの体調を気にかけていました。

被災地でしかわからないこと

ー被災地に行き、何を感じましたか

ニュースでは「どのくらいの人数」の「どのような手助け」が必要なのかについて、あまり報道されていないと思います。被災地のリアルな現状は、自分で足を運んでみないとわからないと実感しました。

私たちも被災地に行くまでは、多くのボランティアの活動により、復興は進んでいると思っていました。しかし実際は、家屋には重機が入れず、一軒ずつ手作業での泥だしが必要な現状がありました。まだまだ人手が必要であり、復興には時間がかかると感じました。

ー「まだ人手が必要」とのことですが、今後もボランティアを絶やさないために、何が必要だと思いますか

ボランティアが足りていないという現状を知っている人が、そもそも少ないのではないでしょうか。

災害発生直後にだけ、ニュースなどで被災地の状況を伝えるのではなく、時間の経過とともに変化していく被災地の状況を、継続して伝えていくことがとても大事だと思います。

だれでも何かの役に立つ

ーニュースを見ると、体力が必要な作業が多い印象を受けます。体力がない人でも参加できるのでしょうか

自己管理さえしっかりできれば、だれでもボランティアはできると思います。

ニュースで見るような体力が必要な作業がすべてではないので、個々の特徴にあった活動を行えば、必ず何かの役に立つことができます。実際に今回の活動では、土砂の運搬の時に、男性と女性で役割を分担していました。また、ひとりでできないことは周りのひとと協力して行えばいいので、できないことは何ひとつないと思います。

ー被災地には大人数でいったほうがいいのでしょうか

大勢でなくても活動は十分にできます。少人数での活動では、他のボランティアの方と行動するため、より多くの情報を集めやすくなります。私たちは今回、同じ班の中にご自身も被災されているボランティアの方がいたこともあり、被災地について考える機会がより増えたと感じました。

話を聴くこともボランティア

ー被災者の方と接するときに気をつけていることはありますか

どこにボランティアに行っても、被災者の方と是非お話してくださいと案内されます。自分たちが話すというよりは、被災者の方のお話に耳を傾けました。そして、常に笑顔で元気でいることで、その元気がみなさんに伝染していくのを感じました。

被災者の方とうまくコミュニケーションをとるのも、大事なボランティアのひとつだと思います。

ー被災者の方が心配されていたことはありますか

ボランティアの体調や事故を心配されていたように思います。特に今回は連日猛暑が続き、ボランティアの熱中症対策が話題になっていました。被災者の方々もボランティアが熱中症で倒れないか心配してくださっていました。

休憩時には被災者の方が、ご自身が大変な状況なのにもかかわらず、冷たいタオルや飲料水をくださり、申し訳なく思いました。しかし、そのご厚意のおかげもあり、より一層の力が湧き活動を無事に終えることができました。

そのときにあった支援が必要

ー今後、どのような支援が必要になっていくと思いますか

マッサージなど被災者の方の心を落ち着かせられるような精神面での支援、義援金などの金銭面での支援が必要になるのではないでしょうか。

災害発生後、時間の経過とともに被災地の状況も変わっていき、必要とされる支援も変わっていきます。その時その状況で、被災者の方々が何を求めているのかをよく理解し、それに合った支援をすることがとても大切だと思います。

団員の声

ボランティア活動を終えて

被災者の方からの冷たいタオルで体を冷やす団員

防災リュックやハザードマップなどをより気にするようになった。

10分活動10分休憩というサイクルは、体調管理もしやすく活動しやすかった。

ニュースではわからない、実際の被災地の様子を知ることができた。

災害はどこにでも起きるものだと再認識できた。

発災から2週間が経過していたが、まだまだボランティアの必要性は高いと感じた。

編集後記

今回、はじめてRCVの作成に参加させていただきました。普段、テレビや雑誌で目にしている災害ボランティア活動のことを具体的に知ることが出来て、とても良い経験でした。そして、編集を通じてボランティア活動をさらに行いやすくするために、もっと工夫が必要だということにも気がつきました。これからもRCVの作成を通じて、たくさんの人に赤十字の活動を分かりやすく伝えていきたいと思います。(明治学院大学・小野澤)

今年の夏は台風、地震などの災害が相次いで起き、「ボランティア」を改めて考えさせられました。今回は、熊本県青年赤十字奉仕団の活動を記事にしていく中で、ボランティアの活動が復旧の重要な役割を果たしていると思いました。体力を使う被災地の復旧作業だけでなく、被災者の心に寄り添うこともボランティアの大切な活動のひとつだと感じました。（日本大学・鈴木）

今月号の表紙とコラムを担当しました。
今年は災害が特に多く、普段以上に危機管理能力が必要だと思います。コラムには非常用バックリストを掲載しています。1人でも多くの方に読んでいただけたら幸いです。これからよろしくお願いします。（明治学院大学・中島）

今号から、新しい編集委員のみなさんにも参加していただきました。これからよろしくお願いします！

CHECK

近年、災害がたくさん起きています。皆さん災害対策はバッチリですか？
自宅が被災したら、安全な場所で避難生活を送ることになります。
非常時に必要なものを持ち出せるよう準備しておきましょう。

非常用持ち出しバックリスト

非常用持ち出しバックの内容例（人数分用意しましょう）

- ☐ 貴重品
  現金、健康保険証、運転免許証・通帳のコピー
  ＊公衆電話用に10円玉も！
- ☐ 避難用具
  懐中電灯、携帯ラジオ、ヘルメット・防災ずきん
  ＊ウワサに流されないためにもラジオで
  正確な情報を！予備電池も忘れずに。
- ☐ 生活用品
  携帯トイレ、歯ブラシ、筆記用具
  手袋（皮がおすすめ）、毛布、ライター
  ＊肺炎予防のためオーラルケアも大切！
- ☐ 救急用品
  救急箱、常備薬、マスク、生理用品
- ☐ 非常食品
  飲料水、乾パン、缶詰、栄養補助食品
  ＊そのまま食べられるものがいい！
  飲料水は1日最低1ℓは必要。
- ☐ 衣料品
  下着、靴下、長袖・長ズボン、防寒着
  ＊動きやすいものを！

普段の生活で使っているものこそ、忘れがちな防災用品です。
赤ちゃんや高齢者などご家庭にあわせて、持ち出せる量の準備をしましょう。

参考：内閣官房内閣広報室（https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html）

赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？
赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページ で 日本赤十字社 検索 **http://www.jrc.or.jp/volunteer**

FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

○編集・発行
事業局　パートナーシップ推進部　ボランティア活動推進室　青少年・ボランティア課
電話：03-3437-7083（ダイヤルイン）　ホームページ：http://www.jrc.or.jp

平成30年10月15日発行　RCV